

近隣の自然の変化に目を向ける No. 54

「愛するアイリス祭： Lovely Iris Festival」

2021年7月12日

今年の春も美しい種々のアイリス（菖蒲）が目を楽しませてくれた。遅ればせながらアイリス(Iris)のアルバムを作成した。但し、昨年 No.16 で花菖蒲を紹介したので、今号では主にアイリス一般を紹介する。和名では、アヤメ（菖蒲）・カキツバタ（燕子花／杜若）・イチハツ（一初）・アイリスと区別されているが、どれもアヤメ科(Iridaceae)アヤメ属(Iris)である。Iris はギリシャ語で虹を意味し、花言葉は希望。人々に愛されるワケだ。

一つ注意：端午の節句に芳香を発する葉をショウブ湯としてお風呂に入れる薬草は、サトイモ科の葉菖蒲で、アヤメとはまったく別の植物である。

尾形光琳作の「燕子花（カキツバタ）図屏風」は国宝として有名だが、燕子花は古典園芸植物として平安時代から知られている。一初（イチハツ）も室町時代から知られているアヤメの一種で、種の中で一番先に咲くので名付けられた、という。

一方、アイリスは西洋アイリスの典型で、青、紫、白の独特の形の花が近隣の公園、庭先で見られる。また、ドイツアヤメも同様で、決してスマートな形とは言えないが、様々な形、色の花が逞しく咲き誇っている。

アヤメ (Iris) は。古今の時代、東西の国々を超えて人々に愛されている植物と言えそうだ。